

R04年度学校関係者評価(小学校)

学校評価(小学校)

教育目標(誠実な人、良き社会人の育成)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆまぬ努力」を達成するために、教育活動全般において「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指す活動を行うことができた。PYP・MYP認定校として建学の精神を具体的に10の学習者像として示し、生活・学習両面において日々の生活の中で取り組んだ。また、年間を通じて朝礼での理事長や学校長、先生方の話を通して、児童の意識の向上を図った。	A	自己評価に同意
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、朝礼や学級の活動を通して、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。宗教行事だけでなく、カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。今年度はサレジオンスタース創立150周年の年だったので、オンラインでつないで姉妹校と共に祝いすることができた。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	プライマリー(1~4年)は、基礎基本の徹底を図っている。探究学習では、PYPユニットプランナーを作成し、教科の枠を超えたテーマのもと主体的に問題を解決できるようにして、10の学習者像に近づけるようにした。読むとくメソッド、英検Jr、ウィークリーテスト等サレジオンメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、ミドル5・6年生では、MYPユニットプランナーを作成し、学習を行った。MYPカリキュラムや評価の仕方を全保護者に書面で配付し、全学年のユニットや評価を公開した。英語の時間数と内容を増やし、更に英語の力を伸ばす工夫を行っている。小論文メソッドも取り入れ、論理的思考が身につくようにした。PYP・MYPともに保護者勉強会を開催し、理解を図った。	A	自分で考える力が身についたり調べてみようという意欲が見られる為とても良い事だと思いました。
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。プライマリーでは観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を記述している。ユニットごとに総括的評価課題を設定し、学びの定着を図っている。ミドル5・6年では、MYPの評価の仕方を全学年のユニットで公開し、明確な評価規準と課題を先行提示した。また、英検Jr.テスト、読書診断指数、英検・漢検などの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	A	自己評価に同意
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業改善も進め、実行している。プライマリーの探究学習では、教科の枠を超え年間6つのユニット(単元)を設定し、セントラルアイデア(仮説)を立て、検証してきた。5・6年のMYPでは、教科の学習に力を入れ、全教科でユニットプランナーに基づく年間50時間以上の探究授業を実施できた。その結果、PYP・MYPともに深い学びにつながり、思考・判断・表現力が培われてきた。一人1台のiPadも活用し、学習の蓄積が可視化されるなど、すべての教科で思考力を伸ばすためにICT機器を使った授業を行った。大型電子黒板やデジタル教科書等ICT機器を有効に使用しながら授業の質を向上させることに努めた。児童の学力を伸ばすために、更なる授業改善を考えている。	B	先生が長期不在になった際、代理もなくその教科の授業が大幅におくれていた。また追加指導があまり行われていないようでした。授業中、私語等で騒がしくて先生の話が聞こえなかったり、進行に滞りがみられた。 授業内で生徒を叱責する場面が見られ、進行がはばかられたり、クラスの雰囲気や活気に満ちたものではなくなってしまうことがあった。 総括的評価課題に対して、点数評価のみで、どのように改善すればさらによくなるかなどの指導をしてくださるとさらに向上につながるのではと感じました。 懇談会で、生徒の語彙力の不足を感じたとの話がありましたが、ユメタンのように語彙の習得も日々の取り組みができるようになるかと習慣化されてさらに良いのではと感じました。
6	授業研修	A	学年ごとに教員間のミーティングを毎週行い授業設計への理解を深めたり、全教職員で国際バカロレアについてより理解を深め実践につなげたりした。また研究授業を計画・実行し、効果を検証した。年2回の公開授業週間では各校種の授業をお互いに見せ合い、意見を交換することによって授業改善に努めることができた。また、PYPの集大成である4年生のエキンピションに向けて、教員が児童の探究をどうサポートしていったらよいか研修を行っている。	A	自己評価に同意
7	学級経営	A	教員は学級の児童と共にいることを大切にし、子どもの心をみとる取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にとり適切に対応している。学校だよりや学年通信をはじめ、お知らせをWEBで配信し、全家庭にできるだけ早く情報を伝えるようにした。また「コドモン」を通して保護者からの連絡事項も素早く受け取ることができ、迅速に対応している。	A	学校で子供が何かあった時に、夕方すぐ連絡をくれて、子供が帰ってきた時に、こちらでもフォローする事が出来ました。また、子供が悩んでいた時、コドモンで相談すると、すぐその日のうちに、連絡を頂き対応して頂けて、感謝しております。
8	生活指導	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。プライマリーでは学習と生活は一体化されているので、教員は常にアンテナツアを心掛け、日々の学習や生活の中で児童と向き合い取り組んでいる。児童に関することは、担任・主任・養護・教頭・校長で連携し、情報共有した。また、通学マナー等に関しても、集団下校グループを作り指導を行っている。JRの乗車マナーについては、何度か指摘を受けた。集団下校グループでの繰り返しの指導や、下校時JR草薙駅に教員が交代で立ち児童の安全を見守っている。	A	自己評価に同意
9	進路指導	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことによって児童の学習意欲も上がっている。5年と6年時に中学校の説明やカレッジのコースについての説明を聞き、サレジオ中学校への理解も深めている。	A	自己評価に同意

R04年度学校関係者評価(小学校)

10	安全管理	児童の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	引き続きコロナ感染予防対策として、入口での検温や手指の消毒、マスクの着用、三密の回避など感染対策にも注意を払った。朝の会では、児童の健康観察を重視して行っている。安全面では、登下校時に校舎の入り口で学生証をかざすことで、登校下校時刻を保護者メールで配信し安全を確認している。また、登下校時には警備員を配置したり、門の解錠に関して安全管理体制をいっそう整備したりした。プライマリー校舎になって初めてテニスコートまで避難する防災訓練を実施したり、防犯教室をおこなったり、防災防犯に関して注意を促した。学園全体の防災マニュアルの見直しも行い、安全管理に努めている。JR草薙駅構内まで教員が毎日送り、児童の安全面に配慮している。	A	自己評価に同意
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って任務を遂行している。各部署ごとに連携を持ちながら取り組み、各分掌の部長がそれぞれ責任をもって運営をしている。	A	自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	コロナ禍ではあるが、行事の内容などを検討し、子供たちの発達段階に合わせて心に残る行事を実施することができた。昨年度まで中止にしていた3年～5年の宿泊学習、スキー教室などを、今年度は感染対策をしながら実施することができた。サレジオ祭、クリスマス会なども規模を縮小しながらも実施でき、児童の喜びにつながった。ただ、6年生のオーストラリア修学旅行は実施できず、国内の広島・京都に変更したが、3泊4日の思い出に残る行事となった。	A	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、幼・プライマリー・ミドル・カレッジの各ステージとの連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	プライマリー棟での最新設備が整った環境で、児童は快適な学校生活を過ごすことができている。電子黒板や背面側面のホワイトボード、後方の整理整頓できるロッカースペースなど、教室内の学習環境も整っている。非接触型のトイレや水道なので、コロナ禍でも衛生的に生活ができる。プライマリー棟とミドルをつなぐ通路も安全に行き来ができ、朝、業間、お昼休みと何度も運動場や遊具広場に行き遊ぶことができている。4号館もリフォームがされ、ラーニングcommonsやコミュニティスペースも活用している。4号館の雨漏りは、修繕中である。	A	自己評価に同意
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	コロナ禍ではあったが、ジョイクラブ、課外体育、スクールバンド等、通常の課外活動を行うことができた。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員がいるようにしている。また、放課後のドボ・スコラでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。	A	自己評価に同意
全般、総合評価			A	プライマリー棟が完成し1年半が経った。新しい校舎の生活にも慣れ、コンセプトのもと教員も児童も取り組んでいる。全児童にiPadを配布して3年目となる。ICTの活用が急速に進み、児童が常にiPadをどの教科でも学習道具の一つとして活用している。今後もICTの効果的な使用については模索していく。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、取り組んでいる。今後も教職員一同一丸となって取り組んでいきたい。国際バカロレアPYP・MYP認定校として探究学習を進める中で、国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいる。建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。	A	コロナ禍で行動制限やいろいろな意見のある中、旅行や体育祭バザーなど子供たちの思い出に残る行事の再開ができて喜んでます。先生たちと生徒の距離感も近くとても良い雰囲気になっていると感じます。早くすべての行事が通常通りになることを願っています。 新校舎で環境が整い、充実した教育がなされているのを全体から実感しています。これからも児童ひとりひとりの幸せのために、心身の成長のためにご尽力下さい。よろしく願いいたします。皆様のご苦労にこそから感謝いたします。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

高評価をいただいたことに感謝いたします。建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたいと思います。あるべき所に物も心もおくことができるように、プライマリー棟校舎のコンセプト「整理整頓と創造」を、今後も子供達と教師も一緒に心掛けていきたいです。授業中は、活気のある良い雰囲気の中、教師と児童との信頼関係のもとに学習が行えるよう取り組んでいきたいと思います。学習面だけでなく、生活面においても一人ひとりに目を配り、きめ細やかな指導を心がけていきます。今後も教員は、物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、実践していきます。また、国際バカロレアPYP・MPY認定校として、探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に、今後も取り組んでいきます。MYPの総括課題については今後も検討していきます。